

# 稲作情報

(最高分け時期頃の管理)

令和4年度第3号

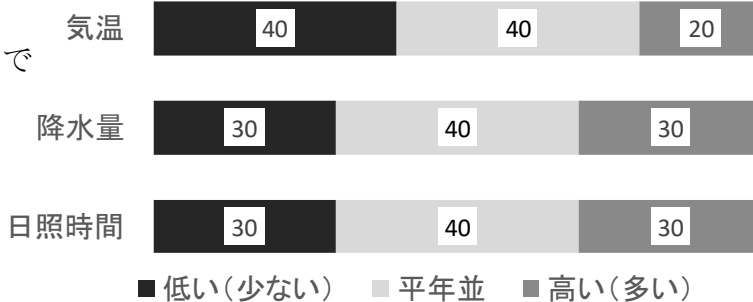
令和4年6月15日発行

福島県喜多方農業普及所、JA会津よつば、  
喜多方市、北塩原村、西会津町

## 天気予報

期間の前半は、天気は数日の周期で変わって  
しょう。期間の後半は、平年と同様に曇り  
や雨の日が多いでしょう。

<1か月予報> (6/2 仙台管区气象台 発表)



## 水管理

### (1) 分け時期

- ・目標茎数を確保するまでは、分けつを促すため水深3cm程度の浅水管理とします。入水は夕方～朝方に行い、日中は止水し水温の上昇を図ります。
- ・疎植栽培(株間22cm以上)の場合は、長めの浅水管理とし、分けつを十分に確保しましょう。
- ・ガスわきが多い場合は、温暖な日を選んで間断灌漑を行い、ガス抜きを行いましょ。

### (2) 中干しと溝切り

茎数確保の目安(中干し前)

- ・中干しは、田面に1cm程度の亀裂が入る程度(足跡がつく程度)を基準とし、出穂の30日前までには終了させます。
- ・中干し後は、間断かん水や飽水管理を行います。はじめは走り水とし、数日かけて間断かん水や飽水管理に移行します。
- ・中干し初期に圃場内に5mに1本程度の溝切りを行うと、中干しやその後の水管理が容易になります。溝はすべて連結し、水口と水尻につながります。

品種	目標茎数(本/m <sup>2</sup> )	植付株数(/坪)	中干し開始の茎数の目安(本/株)
コシヒカリ	650~750	60株(株間18cm)	29~33
		50株(株間22cm)	34~40
ひとめぼれ	750~800	60株	33~37
天のつぶ	460~520	(株間18cm)	20~23

## 葉いもち対策

長雨に注意!

- ・補植用苗は葉いもちの伝染源となりますので、土中に埋めるなど早急に処分して下さい。
- ・育苗箱施用剤を使用していない場合は、以下の表を参考に本田防除を行いましょ。特に「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」はいもち病の抵抗性が低いため、注意が必要です。

葉いもち防除薬剤の例

剤名	使用時期	使用量	使用方法	備考
オリゼメート粒剤	初発の10日前～初発時(但し、収穫14日前まで)	3~4kg/10a	散布	
コラトップ粒剤5	初発10日前～初発時	3~4kg/10a	散布	葉いもち初発が出穂30日前以降の場合、穂いもちと同時防除可能
フジワン粒剤	初発7~10日前(但し、収穫30日前まで)	3~5kg/10a	湛水散布	

※葉いもちの初発時期は地域や年によって異なりますが、概ね7月上中旬です。

# 雑 草 防 除

雑草防除はカメムシ防除にも繋がります！

・残草が多い場合は、草種にあった中・後期除草剤で防除しましょう。

## 雑草対策に有効な除草剤の例(移植水稻)

除草剤名	対象	使用時期	使用量(希釈水量)	使用方法	備考
フォローアップ 1キロ粒剤	一年生雑草、ホタルイ、クログワイ、オモダカ等	移植後15日～ $\text{H}^{\circ}\text{E}5$ 葉期( $\text{I}^{\circ}\text{E}4$ 葉期以降) (但し、収穫60日前まで)	1kg/10a	湛水散布 又は無人航空機による散布	
ハサگران 粒剤	一年生雑草( $\text{I}^{\circ}$ 科を除く)、 ホタルイ、クログワイ、オモダカ等	移植後15～55日 (但し、収穫60日前まで)	3～4kg/10a	落水散布 又はごく浅く湛水して散布	湛水状態で使用すると効果低
ヒエクリーン 1キロ粒剤	$\text{H}^{\circ}\text{E}$	移植後15日～ $\text{H}^{\circ}\text{E}4$ 葉期 (但し、 収穫45日前まで)	1kg/10a	湛水散布 又は無人航空機による散布	
クインチャー 1キロ粒剤	$\text{H}^{\circ}\text{E}$ 等	移植後7日～ $\text{H}^{\circ}\text{E}4$ 葉期(但し、 収穫30日前まで)			
クインチャー EW	$\text{H}^{\circ}\text{E}$ 等	移植後20日～ $\text{H}^{\circ}\text{E}6$ 葉期(但し、 収穫30日前まで)	100mL/10a (25～100L/10a)	湛水散布 又は落水散布	展着剤加用
ナイスミル 1キロ粒剤	一年生雑草、 ホタルイ、クログワイ等	移植後14日～ $\text{H}^{\circ}\text{E}4$ 葉期(但し、 収穫60日前まで)	1kg/10a	湛水散布	雑草 $\text{I}^{\circ}$ に効果高

※農薬を使用する場合は、農薬のラベルや最新の登録情報を必ず確認し、使用基準、使用方法にしたがって正しくお使いください。農薬を使用したら、忘れずに栽培日誌に記録しましょう。

# 飼 料 用 米 に つ い て

目指せ！12俵！

- ・飼料用米のほとんどは「天のつぶ」や「ふくひびき」で取り組まれていますが、これらは分けつしにくいため、活着後は浅水管理とし茎数を確保しましょう。
- ・基肥一発肥料を使用しなかった場合は、穂肥を窒素成分で **2kg/10a** 施用してください。
- ・基肥一発肥料を使用した場合は、基本的に穂肥をしないでください。倒伏を招くことに加え、肥料の無駄遣いになってしまいます。
- ・「ふくひびき」は寒さに弱いため、幼穂形成期（7月5日～10日頃）に低温（平均気温20℃以下または最低気温17℃以下）が予想される場合、10cm以上の深水管理としてください。また、減数分裂期（7月15日～22日頃）の低温に対しては、15～20cm以上の深水管理としてください。
- ・近年、異常気象により基肥一発肥料の肥効が不安定になることがあります。  
このため、「基肥+追肥」の施肥体系にしてみませんか？手間は掛かりますが適切な時期に肥料を効かせることができるため、収量増加を図ることができます。

◇ 草刈り作業が本格化する時期です。安全対策を徹底し、農作業事故を未然に防ぎましょう！

◇ 気温が高くなる時期なので、熱中症に注意しましょう。無理をせず、こまめな水分補給を！

★本情報の内容や米づくりに関するお問い合わせ、相談はこちらへどうぞ。

会津農林事務所喜多方農業普及所

TEL 0241-24-5744

J A会津よつば 喜多方営農経済センター営農振興課

TEL 0241-21-1801